

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、自他の生命を尊び、知性・感性・道徳性・体力に富む、心身ともに健康な児童を地域・保護者と協働で育てる。そのために自ら学び、考え、行動する力や個性を伸ばし、思いやりと規範意識を培い、共生社会を生きる上での基礎を育てる学校教育を推進する。

○進んで学ぶ子 ○心やさしい子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<p>○一昨年度まで足立区教育委員会研究奨励校として研究を進めてきた実績を生かし、足立区立小学校の模範となり、足立区の教育に貢献できる学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の『頭と心と体』のバランスの良い成長を目指す学校づくりを進める。 ・教育活動の充実を通して、保護者及び地域方々から信頼される学校づくりを進める。 ・足立区教育委員会と連携し、新しい施策を取り入れながら学校づくりを進める。
○児童・生徒像	<p>◎生涯を主体的に自分らしく生きていく力の基礎となる、人間力の育成を図る。</p> <p>【進んで学ぶ子】学力面では、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、体験的な学習を通して意欲・思考力・判断力・表現力など自ら学ぶ力の育成を図る。</p> <p>【心やさしい子】心の面では、規律正しい集団生活の確立、学ぶ環境の整備、全教育活動を通じて児童の自尊意識を育て自己肯定感の醸成を図る。</p> <p>【たくましい子】体力の面では、体づくりの運動に取り組むとともに、足立区の体力調査の結果を活用して基礎的な体力の向上を図る。スポーツ大会に参加し運動が好きな児童を育てる。</p>
○教師像	<p>◎一人一人の教師が、足立区立千寿常東小学校の一員であることを自覚し、めざす学校像の実現に向けて、組織的に取り組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解や教材研究に努め、常に熱意をもって全力で日々の指導にあたる。 ・研究や研修に進んで取り組み、自らの授業力や見識を高めるよう日々努める。 ・児童・保護者・地域の方々と円滑なコミュニケーションをとることにより、児童・保護者・地域から信頼されるよう努める。 ・トラブルや事故等、危機管理の必要な場面において、教師は管理職とともに情報を共有し、関係機関と連携しながら誠意をもって素早く対応にあたる。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

重点的な取組事項－1 児童の学力を育てる

平成21年度より週3～4回の朝学習の実施及び週4回の読書タイムを実施し、国語・算数を中心とした基礎学力の定着を図ってきた。その結果、足立区の学力調査において国語では正答率が区の平均正答率を2.8ポイント上回るなど、伸びが見られる。しかし、算数においては、区の平均正答率と変わらない状態が続いている。今後は、算数の基礎学力の育成と国語の読解の力の育成に努めることが課題である。

重点的な取組事項－2 児童の学習の構えを育てる

年間通して実施した校門等でのあいさつ運動等を通して、徐々にあいさつができるようになってきているが、まだまだ不十分な状況である。環境整備については靴箱の状況や雑巾の整理整頓など、改善が見られるが目標の90パーセントには至っていない。次年度も継続して取り組んでいくことが課題である。自己肯定感の醸成については、足立区校長会の「健全育成アンケート調査」によると、60パーセントと低く次年度も継続して取り組む必要がある。

重点的な取組事項－3 児童の体力を育てる

区の新体力テストでは、東京都の平均値を下回っている種目が多い。学年によっても異なるが、全体的に見ると、学年が進むに従って東京都の平均値より下がっていく傾向が強い。児童の基礎体力の育成については、次年度以降も継続的な対策が必要である。

重点的な取組事項－4 教師の授業力を育てる

足立区教育委員会研究奨励校としての研究成果を生かして、引き続き説明的な文章の確かな読み取りを通して教員の授業力を向上させてきた。特に、指導講師を招いて研究授業を7回実施するなど、学ぶ機会を設けてきた。次年度も引き続き取り組んでいきたい。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		21	22	23	24	25
1	児童の学力を育てる（基礎的・基本的な学力、体験的な学習）	○	○	○	○	○
2	児童の学習の構えを育てる（学習環境、学習の規律、自己肯定感）		○	○	○	○
3	児童の体力を育成する	○	○	○	○	
4	異校種（幼・保・小・中）と連携して教育を進める			○	○	○

重点的な取組事項－1 児童の学力を育てる（基礎的・基本的な学力向上、体験的な学習の推進）

A 今年度の成果目標

達成基準

基礎的な学力を育てるとともに、体験的な学習をとおして自ら学ぶ力（活用力・探究力）を育てる。

下表の達成基準4項目のうち、3項目以上達成すること。

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
①基礎的な学力の向上を図る。	区学力調査の基礎的な学力にかかわる部分を再度実施し、各学年の達成率が70パーセントに達していること。	パワーアップタイム、土曜授業、サマースクールにおいて、「読む・書く・計算する」などの基礎的な学習を繰り返し行う。
②体験的な学習の充実を図る。	年間で重点単元を1単元決めて、授業を工夫して行う。	年度初めに学年で重点単元を決めて、十分な教材研究を行い、実施する。
③読書が好きな児童を育てる。	児童の8割が1年間の読書タイムの時間に以下の冊数を読破する。（低学年100冊、中学年70冊、高学年50冊）	毎日15分間の読書タイムを全校で実施するとともに、読書週間の実施や教員や図書館ボランティアによる読み聞かせをとおして、読書への興味・関心を高める。
④読み取りの力を育てる	区学力調査の読み取りにかかわる部分を再度実施し、「読む能力」の正答率が目標値に達していること。	校内研究において読み取りの力を育てることをテーマとして取り上げ、教師が年間7回の研究授業を実施し指導力を高める。

重点的な取組事項－2 児童の学習の構えと自己肯定感を育てる（学習環境、集団生活の規律、自尊感情）

A 今年度の成果目標

達成基準

児童の学習の構えと自己肯定感（学習環境の改善・集団生活の規律づくり・自尊感情）を育てる。

下表の達成基準7項目のうち、5項目以上達成すること。

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
①学習環境を整える。（教室環境、言語環境、清掃状況、名札着用等）	○靴箱の靴が、90%以上整理・整頓されている。 ○名札が90%以上着用されている。 ○放課後、教室の床にごみが散らばっていない学級が90%以上ある。	学校生活の振り返りカードを作成し、生活が乱れやすい時期に実施して指導の徹底を図る。
②集団生活の規律を身に付ける 「あいさつ・返事、目を見て話を聞く、時間を守る」	○朝校門で80%以上の児童が元気よくあいさつする。 ○授業中に、90%以上の児童が教師や友達の話の静かに聞く。 ○各学級において原則として決められた時間に授業を開始する。	○毎朝校門で管理職と看護当番が指導する。地域にも協力を求める。 ○話を聞く態度づくりの取り組みについて、生活指導部で年間2回期間を決めて実施する。 ○全校朝会時に、看護当番・生活指導主任・管理職が指導を繰り返す。
③児童の自己肯定感を育てる。	足立区健全育成アンケートを年度末に実施し、自己肯定感に関する問いに70%以上の児童が「あてはまる」と答える。	教師が児童のよさや伸びを認め、学級に広げ、児童同士でよさを見つけて発表するように指導する。

重点的な取組事項－ 3 児童の体力を育成する		
A 今年度の成果目標		達成基準
児童の運動に対する興味・関心を育て、体力の向上を図る。		下表の18の達成基準のうち、8割(15基準以上)を達成すること。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①児童の体力向上を図る。	区体力状況調査の走る・投げる・跳ぶについての調査を年度後半に抽出した2つの学年において実施し、年度前半と比較して3種目の得点が90%以上向上するようにする。(各学年男女で6の達成基準)	パワーアップタイム、土曜授業において、帝京科学大学こども科学科の支援を受けて体づくりを進める。
②運動が好きな児童を育てる。	区体力状況調査の意識調査にかかわる部分を再度年度末に実施し、運動が好き・比較的好きと答える児童の割合を各学年男子90%以上、女子85%以上に高める。(各学年男女で12の達成基準)	

重点的な取組事項－ 4 異校種(幼・保・小・中)と連携して教育を進める		
A 今年度の成果目標		達成基準
異校種との連携を昨年度より広めて実施し、教育の方法を工夫する。		下表の4点の達成基準のうち、3点以上を達成すること。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①小・中学校連携教育を試行する。	○千寿桜堤中学校と本校で連携のための両校にわたる組織をつくり学力向上のための活動を始める。 ○本校の教員が年間3回以上千寿桜堤中学校の教育活動を参観したりかかわったりする。	足立区教育委員会の委嘱を受け、千寿桜堤中学校と学力向上のための分科会をつくり、連携の試行をする。
②保育園・小学校の連携教育を工夫する。	○保育園・小学校の新しい連携の方策検討し、1つ以上実施する。 ○1年生の4月のスタートカリキュラムを全学級で検討して作成し、試行する。	○相互交流や相互理解など、昨年度までに実施していない保育園・小学校の新しい連携の方策を講じる。 ○1年生の4月のスタートカリキュラムを検討して作成する。